

# 東京大学

## 理学部 広報

第4巻 第2号 昭和47年3月5日

### 2月理学部会合日誌

- 2日(水) 15:30~17:00 主任会議
- 9日(水) 11:00~12:00 人事委員会
- 16:00~18:00 外国人留学生との懇談会
- 14日(月) 14:00~17:00 理学系研究科委員会
- 16日(水) 14:00~18:00 教授会
- 18日(金) 13:00~13:30 学部長と学部自治会の会見
- 21日(月) 12:30~13:30 学部長と理職の定例交渉
- 23日(水) 15:30~17:30 学部長と理系自治会の会見

### 10. 幹事会報告 (大木教授)

改革について幹事会の分析について説明があり意見を求められた。河田, 島内, 寺山, 今井教授他から二, 三の簡単な意見が述べられた。また, 小柴教授から詳しい意見が述べられた。その後かなり多数の方から意見および質疑の応答があった。

### 教官人事移動 (除退・休職)

| 氏名    | 所属 | 発令事項  | 発令年月日    |
|-------|----|-------|----------|
| 馬場 昭次 | 動物 | 助手に採用 | 47. 2.16 |

### 教授会メモ

- 2月16日(水) 定例教授会 於4号館物理会議室
1. 前回の議事承認
  2. 人事移動等報告
  3. 学士入学について
  4. 研究生の期間延長について
  5. 理学部規則の改正について
  6. 評議員改選  
投票の結果植村教授が選任された。
  7. 学内情勢  
経済学部, 農学部キャンパスは相変わらずである。工学部に警官の立入りがあった。(学内広報参照)
  8. 総合計画委員会 (河田委員長)  
病院前道路付近を主とする再開発対象地区のマスタープランについて説明があった。
  9. 人事委員会 (今井委員長)

### 外国人研究員

| 教室(所属) | 国籍   | 氏名                   | 現職   | 研究期間                |
|--------|------|----------------------|--|---------------------|
| 化学     | インド  | Subray Narayan Bhat  | University of Michigan (U. S. A) Rerearch Associate        | 47. 1 ~ 47.12       |
| 物理学    | フランス | Khosrow Chadan       | Directeur de Recherche (Research Professor) パリ大学理学部理論物理学教室 | 47. 2. 6 ~ 48. 2. 5 |
| 数学     | 西ドイツ | Friedrich Hirzebruch | University of Bonn 教授                                      | 47. 2.14 ~ 47. 3.20 |

## 教務委員会の活動報告

理学部教務委員長 飯田 修一

昨年旧久保学部長により指名されてはじめて理学部教務委員会のメンバーとなり、9月初め新委員の方々の推薦を得て、委員長に任に当ることになり現在に至っております。その間の活動のいくつかを簡単にご報告致します。

現在の教務委員会メンバーは、小松(数学)、飯田(物理)、岸保(地物)、高橋(化学)、代谷(動物)、吉川(地理)であります。なお小松委員は臨カリ委員を兼任しています。新委員会は前委員会の活動のあとを受けて、学部教育に関し理学部およびその関連する分野の教育の改善に大いに意欲を燃やして努力しております。教務委員会はその任務上日々実施されている実際の教務に関して理学部としての取りまとめを行なうところでありますから、いわば現場に関する委員会なので、いつかは実施されるであろう改革といった大きい夢を取り扱うことはできず、現時点で必ず実行できることだけを考慮して作業を進めることとなりますが、結構ささやかな改革が進行し、その到達点は決して小さなものではないのではないかと自負しております。

昨年新委員会になりましたから、まず直面した仕事は臨カリ実施に伴う駒場第四学期における専門科目の時間割編成でありました。これはいわばクロスワード・パズルの大変困難なものを解くようなもので、臨カリ実施に伴い人文、社会の通年講義がニコマ挿入されている結果大変な難問でありました。しかし小松委員の大変な解析的努力と関係理学部教育のご協力により、この難問が一応解決できました。次に理学部の学部教育に関する問題点は何かということをも十分理解しようと努力致しまして、例えば個人的ではありましたが駒場の講義の際に2年生の学生諸君の意見を聞いたり、自治会委員にたずねたり(回答が未だ来ておりません。これは信頼していたらいいということでしょうか?)致しました。(教務委員会の活動は現在臨カリに関する軌道修正の形を取っておりますので、既に本郷にいる学生諸君からは意見が出し辛いかも知れません。)その結果、学期により学習負担に不均衡のある問題や、教養での語学の教育の改善に学生諸君の要望が強いということなどを知り、教務委員会として教養の先生方と懇談する機会等も二回程持ちました。

以上のような活動を通じて、良いと判断されかつ実行可能であることはドンドン実行して行く方針であります。例えば物理学関係では第4学期の専門課目履修規則

に関し、指定の選択課目以外で差支えない単位数を「2単位」から、学生諸君の要望に応じて「4単位」に変更することが行なわれました。語学の問題に関しては、理想的な語学教育のパターンについては、理学部の教官間にもいろいろ各論があり、現在十分一致しているとは言えませんが、この機会に私の考え方を述べて、ご批判を仰ぎたいと考えます。

現在オランダ、スウェーデンといった国では外国語は義務教育の中に入り、10才からstartして英語を3年間でマスターします。次に13才から第2外国語(例えば独あるいは仏等)に入り、16才でこれも終わります。そして16才から19才に第3外国語が始って行くということです。ほぼ3年が一つの言葉をマスターするのに必要な年月と考えている訳であります。この際の目標は一応の読み、書き、会話がができるということであると思いますが、スウェーデンで英語の試験の時に“アクセントがアメリカンであったから落とされた”といった笑話話がある位しゃべれることが重視されています。私もこの考え方に全く賛成で、これが最も効果的で最も実践的で最も楽な語学の学習方法であると信じています。(ただし私は旧教育の犠牲者ですが)とにかく日本語を話し、書き、読むのと全く同じ要領(同一の脳細胞の動作方式)とスピードで外国語を話し、書き、読むのでなければ実践には役立たないことは確かです。したがって、語学教育の到達すべき目標を最初からその点に置き換えますと、その国の人が、その国のスピード、その国のニュアンスでしゃべっている言葉の十分な記憶量を頭脳に持ち、かつ当然のこととして、それを聞き取る神経の訓練を終了しておくということは、必然の前提条件になります。旧式の語学教育が、日本語ではやったことのないような手順で語学を学ばせるのは、タイプを一本指で打つことを猛練習させているようなもので、全くの脳細胞資源の損失であるという考えであります。私はこの考えが間違いなく絶対と信じているのですが、放言と取られる節がありますので、これ位で終わります。また日本人が英語を学ぶのと、オランダ人が英語を学ぶのとに差がないということも信じておまして、子供はその国に行くとき大体4カ月でほとんどマスターするようですし、その際日本人と例えばオランダ人とで、別に本質的な差異は出ていないように思います。多少余談ですが、世界の平和にすべての人が、大変促進されるのではないかなどと思っております。なお外国文学の鑑賞という問題は、以上とは多少異なる問題ですが、併し、以上のtrainingを経た上で、本当の鑑賞ができるのであろうと思っております。そうでないと大変な頭脳活動の損耗

を伴っているのではないのでしょうか。

なおより良い教育方法というものがわかったとしても、それを実際実行することはまた別の問題であります。多少大げさに言いますと、現代は教師衰史の時代であって、大量教育の課題の上にさらに社会の進歩が著しく、われわれ教官の負担は激増しておりますし、また進歩に対応する自己改革の問題もある場合には可能ですが、必ずしもすべての場合、すべての人に可能ではないなどの問題が発生しつつあるのではないかと考えます。われわれ教官も人間であり、人間として follow できる範囲の程度でしか改革できないことも事実であり、また予算、制度その他教官以外に責任のある問題も関連します。“slow but steady”をある意味でモットーとしてゆくべきであるという点もご留意願います。

次に理学部の来年度よりの教務の調整改善を便覧の改正という形で正面から取り組むことに致しました。ご承知の理学部便覧は東京大学の100年の歴史を反映して長く続けられて来たものですが、外国の諸大学のカタログなどと比較しますと著しく異なっております。それでその近代化に着手したのですが、他学部との関係その他簡単には変えられないところもあり、結論的には次の諸点が改修されて、来年度発行されます。

1) 講義は全部半期(一学期)単位となりました。したがって他学科の講義等を聴くプログラムが、ずっと作りやすくなるはずです。

2) 午前中の時間帯は、月曜日を除いて休憩時間が10時~10時15分に明確に統一されます。月曜日は教育学部で開講される理科教育の時間帯が8時30分~10時20分ということで、その時間に合せざるを得ませんでした。しかし、コース・クレジット制度の世界の諸大学では全学時間帯は完全に統一されているので、今全学レベルに時間帯の統一という問題を提起しております。(食堂の混雑という問題にも関係します)新学期の時間帯は曜日、時間帯別に全理学部の講義をリストする予定です、他学科の講義聴講に便利になります。

3) 次に理学部の学部の科目に全部科目番号がつけられました。例えばPH302と言え物理教室で企画されている3年生用の必修科目ということであります。(定義の詳細は便覧に付記されます)。

4) 共通科目として情報科学I、IIが土曜日に置かれます。臨カリの実施に伴い、新しい3年生は土曜日がオープンになり、共通科目と人文、社会科学等のために当てられます。4年生は従来通りですが、教室によっては同様に処置されたところもあります。

5) 理学部便覧に理学部全講義室の配置がわかるよう

な本郷構内地図と、各建物内の講義室の位置を示す図面をつけます。

6) 理学部での一年の行事予定のカレンダーをつけます。

7) 理学部の各教室等に至る組織ダイアグラムをつけます。また関連する研究施設等の電話番号を入れます。

8) 各教官の住所氏名に専攻分野、構内電話番号を入れます。

等の改編を加えました。

なおこれからの審議目標として(全学の)全講義を半期単位にする問題、語学教育、特に英語を第一外国語に必ずしなければならないかという問題、単位数と実際の授業事情との間の不統一の問題等が指摘され、いずれも全学の意志統一に関係する問題として、長期的観点に立って理学部の意志統一を計ってゆきたいと考えております。

以上かなり羅列的に問題をあげましたが、教務に関し理学部各学生諸君、各教官よりの意見、指摘は大小によらず、積極的に取り上げて、良いものに関しては実行案を考え、実施に移して行きたいと考えておりますからそのようなことがありました節はご遠慮なくご一報下さい。予算や法制上のこともありますが、東京大学理学部、さらに教養学部を含めて東大全体を世界で最も良い教育機関の一つにしたいというのが、私の現在の夢であります。そしてもちろんそのためには、同様に最も良い研究機関の一つにならなければならないことも併せて信じているところです。(物理学教室教授)

## 理学博士学位授与者

昭和47年2月14日授与者

| 専門課程         | 氏名   | 論文題目   |
|--------------|------|--|
| 地理学          | 野上道雄 | Andes 地帯の氷河と気候変化   |
| 相関理化学        | 小林 興 | Studies on soluble RNA binding indoleacetic acid in etiolated hypocotyl sections of mung bean.<br>(黄化したヤエナリの胚軸に存在するインドール酢酸を結合した sRNA について) |
| 学位規則第3条第2項該当 | 大村能弘 | 金属による軟X線吸収スペクトルのスペクトル端における異常について<br>—特にその発射スペクトル端異常との関係—   |
| 同            | 米井克巳 | An Extended Thomas-Fermi-Dirac Theory for Diatomic Molecule.<br>二原子分子の拡張トーマス・フェルミ・デイラック理論  |

| 専門課程         | 氏名   | 論文題目   |
|--------------|------|--|
| 学位規則第3条第2項該当 | 牛島照夫 | On the generation and smoothness of semi-groups of linear operators.<br>(線形作用素の半群の生成と滑らかさについて)               |
| 同            | 尾本恵市 | Blood Protein Polymorphisms and the Problem of the Genetic Affinities of the Ainu.<br>(血液蛋白の多型とアイヌの遺伝的起源の問題) |
| 同            | 杉本 勉 | Studies on Carcinogenic Aminoazo Dye-binding Proteins in the Rat Liver.<br>(ラット肝における癌原性アゾ色素結合タンパクの研究)        |

## 学部長と学生自治会代表との会見

理学部学生自治会からの申し入れにもとづき、上記の会見が2月18日(金)午後1時より約30分にわたって理学部会議室で行なわれた。出席者は小平学部長、大木幹事長、宮沢学生委員兼奨学委員、藤原自治会委員長他学生4名であった。

学生より奨学金について質問があり奨学委員から育英会への推せんにあたっては主として経済事情が考慮されること、奨学金増額要求の努力がなされていることなどの説明があった。

ついで五月祭に対する援助について希望がのべられ、学部長は検討してみることを約した。(宮沢弘成記)

## 学部長と理職との交渉(2月)

上記の会合が2月21日12時半から1時間に亘り理学部会議室において行なわれた。学部側の出席者は大木評議員(学部長の代理)、吉野事務長ほか1名であり、理職側の出席者は金子委員長ほか最盛期で約20名であった。

金子委員長から提出された議題は、宿日直問題、および、生化における問題である。

(1) 宿日直の件では、理職側は宿日直関係の規程・心得を検討した結果として、これらの文書の内容が、該当する人事院規則よりもきつい面があること、実際面の適用に当って不明確な点を含むことを指摘したが、学部側も上記文書が作製された時期・経緯からも手直しの必要を認めた。理職側は「それにしても宿日直手当620円は安すぎる」とも主張した。なお、宿直あけの日の勤務についてしかるべき配慮がなされるべきだと論ぜられた。

(2) 生化の件では、理職は生化での人事問題の早期解決を重ねて要望したほかに、これに由来する諸困難のうち特に職員にとって切実な面を訴え、学部当局の配慮を求めた。  
(藤田宏記)

## 理系院生との会見(理系交渉)

理系自治会の申入れにより、理系委員長(理学部長)と理系院生との会見が2月23日午後3時半から午後5時までで物理186号室で行なわれた。教官側の出席者は小平委員長のほか大木(評議員)、宮沢(学生委員)、佐々木(幹事)、藤田(幹事)の各教授であり、院生側の出席者は仲本委員長ほか最盛時で約30名であった。

仲本委員長から提出された議題は授業料問題と生化問題であった。

(1) 授業料問題については、院生は院生生活をめぐる経済条件の切実さを訴えながら、かねての主張にもとづき値上反対への努力を要望した。この問題に対する出席教官の意見はさまざまであったが、小平委員長は「学部長としては授業料は安いにこしたことはない」と考えるが、教授会あるいは学部長が声明を出すことは適当でない」という見解を理由と共に述べた。

(2) 生化問題について院生は、生化における人事の停滞がそこでの研究・教育に対し、直接間接に諸々の支障を招来している事実を訴え、人事問題の早急な解決はもちろん、解決にいたる間にも生化の直面している困難を理系系として適確に認識してほしいと要望した。

(藤田宏記)

## 古い文書から No. 8

昭和46年6月15日号、同7月25日号の理学部広報に本学部1号館地下室から出てきた伊能忠敬翁の遺品(わんからしんその他)のことに書いておいたが、先日偶然の機会に大谷亮吉氏編著「伊能忠敬」(大正6年3月刊)を通読したところ、上記の記事に関係のある事項が記されていたので、抜書きをしてみることにする。

これによって本学部保管の「わんからしん」は大正3年に千葉県香取郡新嶋村に居住する大須賀恒造氏より購入したことが明らかになった。

### (抜書)

忠敬の実用に供したる小方位盤の多くは量地伝習録に記せる如く逆目盤と称する種類に属するものにしてこの

の種のもは測量の期間に亘りて多く製せられ其寸法は必しも一定せず。されば今遺存せる方位盤中来歴の最も正確なる東京帝国大学理科大学所蔵のもの（大正3年千葉県香取郡新嶋村大須賀恒造より購入）につきて其構造を記述すべし。この逆目小方位盤はもと忠敬の親友久保木清淵が記念として忠敬より贈与を受けたものにしてこれを格納せる桐箱の蓋裏に清淵の手書にかゝる

#### 鸕鷀羅鍼一面

伊能勘解由老人遺物 文政元戊寅4月12日没 年74  
老人以此羅鍼東自奥州津軽外浜西到九国二島種子島尾  
久島及伊豆大島八丈島蝦夷地悉測量之造輿地図以上官  
余以与老人相信善私助造図末後贈余以此器以識永訣云  
久保木太郎右衛門清淵  
なる文辞を録し以てその来歴を明かにせり。

以上の文章の中にててくる忠敬の親友久保木清淵氏とは如何なる人物であるか。手許にある古い文書を現代文にあらためてみると次のとおりである。

#### 記

久保木清淵、字は蟠竜後に冲黙と改め竹窗と号している。幼名を長四郎と云い後に太郎右衛門に改めた。下総国香取郡津宮村の人であって、宝暦12年(1762)に生れた。

幼時香取根本寺の僧侶松永北溟に従つて書を読み、勉強にはげみ、長じてからは草字及大字をも良くした。人物は重厚で徳行をもつて称せられ、その弟子となるものが多かった。領主小笹原安房守は清淵に称姓、佩刀を許して名主の職を執らせた。文政12年(1829)8月病のため没した。享年68才。

清淵が生れた津宮村は伊能家の所在地である佐原村に近かったので、漢学に長じ且つ村務に関与していた清淵と、隣村の主宰で名望高く且つ知識を求めることに熱意をもっていた17才年上の忠敬とは公私とも親しかった。

忠敬の没後はしばしば江戸亀島町地図御用所と郷里の間を往来して遺業の進捗に力を盡した。忠敬の幕府に上呈した沿海実測録は盡く清淵の清書したもので、その序文も忠敬に代つて清淵が草したものである。忠敬の測量原簿及間宮倫宗の蝦夷実測野帳数百冊も清淵の家に保管されていたが、明治の中葉に至つてその大部分が反古と

して濫用されて散逸し、残りも又後に火災に罹つて盡く灰燼に帰してしまつた。この他忠敬との往復書簡並に測量に関する各種の文書もまた少なくなかつたが、その多くは測量原簿とその運命を共にしてしまつた。

(吉野誠治)

## お知らせ

### ○昭和47年度

#### フィンランド政府奨学金留学生の募集

- 1 専攻分野 自然科学
- 2 応募資格 大学卒業者または卒業見込者
- 3 出願メ切日 3月9日(木)

#### デンマーク政府奨学金留学生の募集

- 1 専攻分野 自然科学(他に人文、社会科学)
- 2 応募資格 大学を卒業している者または卒業見込者
- 3 出願メ切日 3月10日(金)

#### エンリコ・マッティ高等学院講座の参加者募集

[ENI(イタリア炭化水素会社)]

- 1 資格 修士またはこれと同等以上の称号を有する者
- 2 開講期間 1972年11月1日~1973年6月30日
- 3 出願メ切日 3月10日(金)

#### ユネスコ後援によるチェコスロバキア・カレル 大学大学院トレーニングコース留学生募集

- 1 場所 チェコスロバキア・カレル大学
- 2 期間 1972年9月~1972年4月
- 3 分野 化学、物理
- 4 資格 修士の学位を有する者
- 5 メ切日 1972年5月31日(直接申込)

#### オーストリア政府奨学金留学生の募集

- 1 専攻分野 自然科学
- 2 資格 大学卒業以上の学歴を有する者
- 2 出願メ切日 3月20日(月)

以上詳細は、理学部大学院掛に照会下さい。

編集 和田昭允  
理・1号館 217号室 内線 2298